

看護師国家試験 状況設定問題

臨床の
エキスパートが
教える！

第6回

独居・高齢の 患者の在宅看護



(第103回追試・
午後97~99)

看護のポイントは？

疾患のみでなく 患者さんの生活に目を向ける！

ココが
ポイント！

地域での看護師の役割

今回は、直接ケアをすることが可能な臨床の現場ではなく、地域包括支援センターでの看護師の役割が取りあげられています。

看護は疾患のみをみていくものではありません。とくに今は国をあげて「病院から在宅へ！」とシフトチェンジが叫ばれている渦中にあります。看護師は、疾患への配慮も行いながら、同時にその患者さんの生活にダイレクトに目を向けていける職種です。

ココが
ポイント！

独居かつ高齢の 患者さんの増加

今回のような高齢者は、実は街中にあふれていると言っても過言ではありません。“予防的な視点をふまえつつ、確実にアセスメントとリスクの洗い出しを行い、介護保険の基本理念である自立を促していく”力が求められます。

執筆

坪内紀子 Noriko Tsubouchi

おんびっと株式会社

1988年東京女子医科大学看護専門学校卒業。東京女子医科大学病院勤務などを経て1998年から訪問看護に従事。2013年おんびっと株式会社設立。2014年2月より訪問看護ステーションを開設。日経メディカルAナーシングでコラム掲載中。

問題

第103回追試・午後97～99

次の文を読み97～99の問いに答えよ。

Aさん(78歳、男性)は、1人で暮らしている。県外にいる娘が月に2、3回来て、世話をしている。Aさんが半年前に比べて食欲が低下し痩せてきて、平日に毎日通っていた老人福祉センターも行かなくなって心配だと、娘から地域包括支援センターに相談があった。Aさんは半年前の健康診査では高血圧以外には異常は指摘されていない。

97 地域包括支援センターの看護師がAさんについてまず収集する情報として適切なのはどれか。

1. 食事の嗜好
2. 上腕周囲長
3. 半年前の体重
4. 上腕三頭筋皮下脂厚

98 Aさんは要介護認定を申請し、要支援2の認定を受けた。Aさんの娘は「父は買い物に行くのを面倒に感じています」と看護師に話した。

Aさんへの支援として最も適切なのはどれか。

1. 訪問介護の導入を提案する。
2. 配食サービスの利用を提案する。
3. 高蛋白栄養補助食品のサンプルを渡す。
4. 娘に乾麺をまとめて買っておくよう提案する。

99 Aさんは、食欲が回復し元気になってきたと話した。今後のAさんの運動機能の維持・向上のための支援で最も適切なのはどれか。

1. 週に1回の散歩を勧める。
2. 訪問リハビリテーションの利用を勧める。
3. 運動に関する講演会への参加を勧める。
4. 老人福祉センターの利用の再開を勧める。

この問題を解いておきたい理由

これからの医療者は介護保険と無縁ではすまなくなってきています。

介護保険が始まったのは2000年、地域包括支援センターがスタートしたのは2005年の介護保険法改正以降です。介護保険自体が新しい制度ゆえに、3年ごとの改定でめまぐるしく変更・修正が繰り返されています。一般の人の認知度は相当高くなってきていますので、医療者としてポイントをおさえておくことはとても有用です。



各設問のポイント

97 情報収集

設問内のわずかな情報を手がかりに、看護師として気になるキーワードを瞬時に見つけ出していく力が求められます。ここでは、順に年齢、独居、食欲低下に伴う^{まろ}い瘦、活動低下、健康診査をあげます。その中で生命に直結するものが食欲低下に伴う^{まろ}い瘦です。

98 要支援2で必要な支援

選択するにあたって必要となってくるのは、介護保険を使ってどのようなサービスを受けられるかという知識です。また、要支援者と要介護者では自治体や保険者によって受けることのできるサービスに若干の違いがあるということもあわせておさえておきましょう。

99 今後の支援

ここでは、予防的な見地に立つことが必要になります。また自立を妨げることがないように配慮するとともに、Aさんのこれまでの習慣や楽しみにも注目していきます。

解説 問題 97

選択肢1 食事の嗜好

設問に「まず」とあることから、優先して収集すべき情報を選びます。そのため、選択肢1はここでは×です。しかし嗜好をきちんと把握できていることは、今後のサービス提供を考慮していく際に有効な情報になりえます。

選択肢2 上腕周囲長

上腕周囲長を測定するのは栄養管理の観点から、エネルギー摂取量が反映される上腕部の太さを測定し、体脂肪量と筋肉量の指標とするためです。よって、今回のような、本人が目前にいない状況、また継続的な測定が不可能な状況では不適切です。

しかし体重計のない家では、継続した上腕周囲長測定は栄養管理の目安として有効な手段です。

選択肢3 半年前の体重

この時点では4つの選択肢の中で、1番妥当です。体重のみならず身長もあわせて尋ねることによりBMIの概算ができ、Aさんの食欲が低下し痩せてきたことを感覚としてとらえている娘の頭の中の整理にも有効です。ただし、独居の高齢者の家には意外と体重計がないこともあるため要注意です。

選択肢4 上腕三頭筋皮下脂肪厚

これは体脂肪の評価に用いる数値であることから、ここでは不適切であり、一般的な方法ではありません。

正答 3

Key Word 地域包括支援センター

●地域包括支援センターとは

地域包括支援センターは、市町村が設置主体となり、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員等を配置して、3職種のチームアプローチにより、住民の健康の保持および生活の安定のために必要な援助を行うことによって、保健医療の向上および福祉の増進の包括的な支援を目的とする施設です。

●業務の内容

●包括的支援事業

- ①介護予防ケアマネジメント
- ②総合相談・支援
- ③権利擁護
- ④包括的・継続的ケアマネジメント支援

●介護予防支援事業

指定介護予防事業所として、要支援者のケアマネジメントを実施

→ BMI

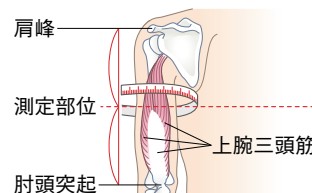
- ・1994年にWHOで定めた肥満判定の国際基準。日本でも健康診断で使われる
- ・ $\text{体重(kg)} \div [\text{身長(m)} \times \text{身長(m)}]$ で求められる
- ・判定基準は各国で異なり、日本では18.5以上25未満が標準とされている

18.5	25.0	30.0	35.0	40.0	
低体重	標準	肥満(1度)	肥満(2度)	肥満(3度)	肥満(4度)

実践

●上腕周囲長の測定

- ①利き手でないほう(細いほう)の上腕三頭筋部を選び、^{けんぼう}肩峰と^{ひじのこぶ}肘頭突起とを上腕後方で結び線の間を定める
- ②その位置の腕の太さをメジャーで計測する



【基準値】

成人男性：27.23 ± 2.98cm
成人女性：25.25 ± 3.05cm